

住民参加とシェアの革新による 「下町人情ウェルネス・スマートシティ」の実現

事業主体：アーバンデザインセンターすみだ（UDCすみだ）

目的 **“大学の知”を活用した住民参加とシェアの革新による ウェルネス・スマートシティの実現**

「健康寿命をのばし、誰一人取り残さない『健康長寿日本一のまち』の実現」を目指し、キャンパスエリアをフィールドとした公民学連携による社会実験を通じ、住民が主体となって地域課題に取り組むウェルネスなまちを目指す

概要 **公・民・学が連携し、住民を取組に巻き込みながら課題解決**

これまで大学が無かった墨田区において、長年の大学誘致の結果、iU 情報経営イノベーション専門職大学（R2）及び千葉大学墨田サテライトキャンパス（R3）の誘致に成功。

「職・住・学・遊」が調和したまちづくりを目指し、「UDCすみだ」を設立。
▶ 公・民連携に加え、「大学の知」及び住民が参画した推進体制のもと、
地域課題の解決を図っていく。

取組

① アプリによる健康への気付きプロジェクト

歩行速度計測や各人に沿った健康情報をメッセージアプリにて提供し、住民が健康に意欲的になり、自ら健康増進に取り組む



② 住民参加型公園管理プロジェクト

住民による公園の投稿写真を分析できるシステムを構築し、住民自らが公園を管理する主体となり、住民目線で公園の利活用が可能になる

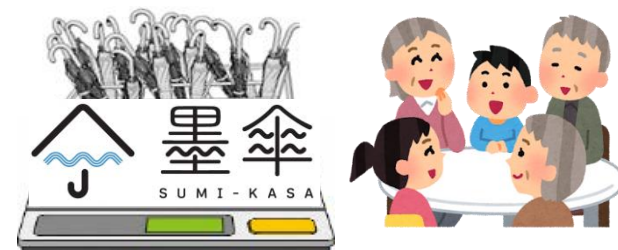


UDCすみだ構成

- ・墨田区
- ・千葉大学
- ・情報経営イノベーション専門職大学
- ・墨田まちづくり公社
- ・区内関係団体

③ 循環型のシェア傘プロジェクト

鉄道の忘れ物傘を活用したシェア傘サービスをデジタルの力で効率的に運営。利用者にはクーポンやエコポイントを贈呈し、利用者と地域店舗の交流を促進するとともに人流把握にも活用。



住民が自ら主体となって地域課題に取り組むモデルの構築を目指す

外出したくなる・移動しやすい安全なまちづくり ～回遊の分析・向上実装プロジェクトin高島平～

事業主体：スマート高島平プロジェクト協議会（仮称）

目的

「多くの人を惹きつけ、時を過ごし、住みたい、働きたいまち」、「暮らし続けるまち」づくり

- ・板橋区の人口増加に対し、老朽化した施設や衰退した商店街などを抱える高島平地域では人口が減少していることから、住民の利便性向上や地域の魅力・活力を高め、来訪者や新たな居住者の流入を促す。
- ・災害時の混乱を最小限に抑え、住民の防災意識を高める。

概要

街の魅力や利便性の創出

■ センサー（Wifiやカメラ）を用いた人流計測及び分析

- ▶ 行動特性を把握し、外出したくなる・移動しやすいまちづくりにつなげる

■ デジタル技術（AR/MR）等を活用した地域周遊型まちづくりイベントを実施

若い世代にも訴求できるコンテンツを提供、商業集積エリアに新コンテンツ配置

- ▶ 誘客・地域内回遊による賑わいの創出と魅力発信

■ 移動利便性向上に向けたモビリティの導入

主に居住地と地下鉄駅（三田線）や主要な施設を結ぶ便利な電動マイクロモビリティを検討・実装

- ▶ 日常移動の負担軽減、居住者の日常的な移動の利便性向上

新たなモビリティの例

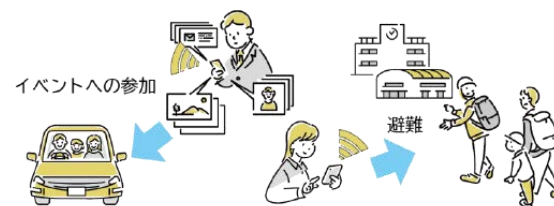


未来型パーソナルモビリティ
出典：(株)Luup

地域の災害に対する備え

■ 災害情報や生活情報を発信する地域SNSの導入

- ▶ 発災時の避難情報を発信、日常生活における行動変容促進



SNSによる情報提供が促す行動変容のイメージ

■ 人流データを活用した避難経路を明示するツール構築

- ▶ 発災時に適切な避難を誘導

【浸水エリアを見た場合】
浸水した時の状況・
避難ビルが表示

■ 3D都市モデル等を活用した避難シミュレーションの実施

- ▶ 住民に様々なシチュエーションで水害が発生した状況を体感してもらい、防災意識を向上させる



可視化ツールにおける表現イメージ

デジタル技術を活用して生活利便性の向上や賑わい、地域の強靱性向上を実現する

事業主体：多摩センタースマートシティー協議会（仮称）

目的 従来の「まちづくり」から住民とともに取り組む「まちづくり」へ

行政や公的事業者を主導として機能集積を進めてきた多摩センターは、高齢化やインフラの老朽化も進み、流入時とは異なるニーズに対応する必要がある。そのために、住民等が「共感」をキーワードに既存の資源である都市基盤・インフラを使いきる「まちづくり」ビジョンを創出する持続的なプラットフォームの形成を目指す。

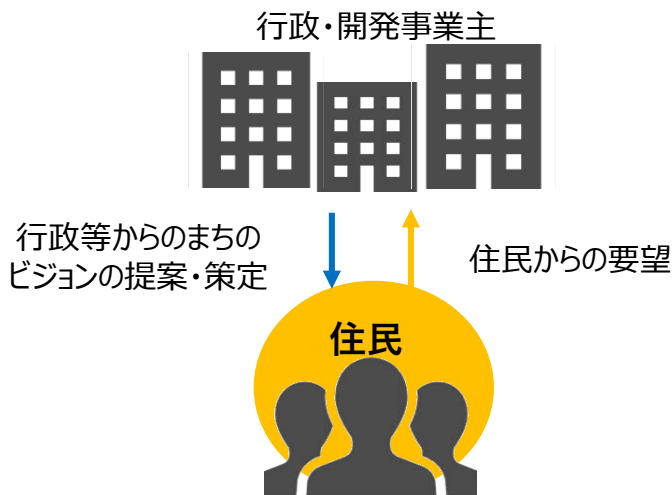


パルテノン大通り

概要

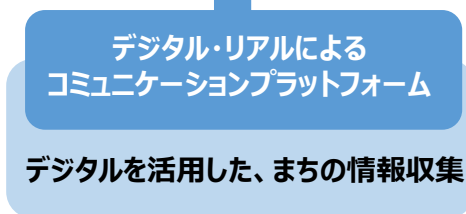
従来のまちづくり

行政・開発事業主が主導となり、住民の意見を聞きながら、まちを作り上げる



時代、環境、住民ニーズの変化に応じた

バージョンアップ



住民との共創型のまちづくり

住民や事業者、来訪者が共感のもと自らがまちの使い方を作り上げ、行政・開発事業主は住民等の声に応えていく



▶ 当初のまちの用途に固定されがちで、時代・環境の変化に臨機応変に対応できないことも

▶ 現在の時代、環境、住民ニーズに適したまちの使い方を臨機応変に実現

時代や環境の変化に柔軟に対応しうる、デジタルの力を最大限発揮した、住民本位の、真に利便性・快適性の高いまちを実現

見える化で街をフェーズフリーにする赤坂地域デジタルツイン 化構想「デジタルAKASAKA（仮称）」サービス実証事業

事業主体：デジタルAKASAKAプロジェクトチーム（仮称）

目的 平常時と災害時ともに価値をもつフェーズフリーなエリアプラットフォームの構築

街の見える化を通じ、住民に対する安全・安心の提供のみでなく、住民の利便性向上・賑わいの更なる創出にも同時に資する仕組みづくりを行う




地図・建物の3D空間情報データ連携基盤

概要

地域町会・商店会等・赤坂青山地域滞留者対策推進協議会・事業者等からの意見・要望

データ連携基盤による街の見える化

■ 地域活動情報の可視化

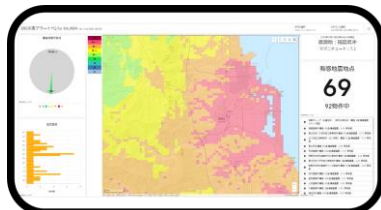
活動主体による情報の投稿、
サイネージや通知を通じた活動の周知

- ▶ 活動の認知度向上、
担い手確保、持続的な活動創出

■ 防災関連情報等の可視化

ハザード情報、防災関連情報の
リアルタイム表示

- ▶ 適切な避難行動、混乱の回避



鹿島グループの提供する災害対策システムとの連携イメージ

公園や空地利用・管理のDX

■ 公園イベント参加などのデジタル申請対応

- ▶ 参加方法の簡素化による参加者増加、
主催者の管理の効率化



■ イベント主催者・出店者情報のオープンシステム

- ▶ イベント主催者と出展者の効率的なマッチング、
地域店舗の他エリア展開による地域活性化

■ 遊具、設備、公園樹木などへのNFCタグ貼り付け

- ▶ 公園管理の効率化、負担の軽減

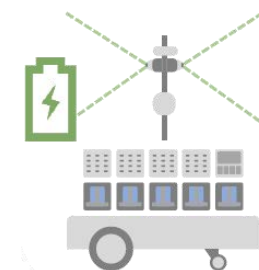


耐候性NFCタグ

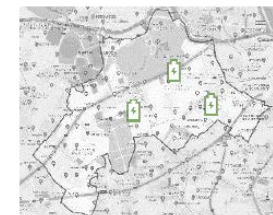


可搬式モジュールバッテリーの活用

■ 公園・空地での バッテリー搭載多用途ワゴンの運用



バッテリー搭載多用途ワゴン



設置場所を表示

- ▶ 平常時：屋外イベントや
各種サービスの電源として利用



- ▶ 災害時：非常用バッテリー
としての利用



地域に根付き地域に寄り添う、平常時も災害時も有効に活用できるサービス基盤の構築

※支援期間：交付決定の日から令和7年3月31日まで